

- A. 【日 時】 2012 年 9 月 13 日 木曜日(11:45～13:30)
- B. 【場 所】 名古屋大学 豊田講堂 3 階 会議室 2
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、榎究(幹事)、辻村壮平(幹事)、  
秋田剛、大井尚行、大石洋之、大野隆造、合掌顕、小島隆矢、  
讃井純一郎、高橋正樹、長野和雄、西名大作、宗方淳 以上委員  
澤島智明 以上オブザーバー  
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2012 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事録(案)  
2012 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議題

E. 【報告事項】

1. 2012 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

前回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 東日本大震災合同調査報告書の編集の報告

環境工学本委員会に設置された東日本大震災合同報告書・環境工学 WG の委員の選出協力の依頼が本運営委員会にあり、東日本大震災合同調査報告書の編集委員として本運営委員会から榎幹事が選出された。

3. 建築環境心理生理学術用語集に関する報告

以前から刊行企画を予定していた「建築環境心理生理学術用語集」がようやく出版社(彰国社)に入稿できる形が整い、刊行計画書を提出する予定である。A5 版で 300 ページ程度の内容で、本年度中に出版する。当初 WG (小委員会) での作業から相当変わっており、現在の運営委員会で出版前の校正を行うことになったため、環境心理生理用語集小委員会の委員リストは掲載するが、執筆は山田先生と大井委員が担当とし、運営委員会でチェックをお願いした方も協力として掲載する。

F. 【審議事項】

1. 次年度以降の小委員会の方向性

2013 年度以降の各小委員会の方向性を各小委員会主査が報告した。各小委員会は本年度が設置期間の最終年度となっており、来年度以降の廃止・再設置について活発な議論が行われた。なお、小委員会設置申請書の締め切りは 10 月 26 日である。

○ 環境心理小委員会

環境心理小委員会主査の宗方委員が来年度以降の方向性として、環境心理小委員会は設置期間満了のためひとまず廃止するが、主査が変わり再設置することが望ましい旨を報告された。活動内容に関しては、現在チュートリアル開催がメインとなっているが、チュートリアルの活動は WG を設置してそこで行ってもよいのではないかという意見も挙がった。小委員会としては、計画系との研究交流会や研究活動などを行えばよいと

いう話もあった。

#### ○ 感覚・知覚心理小委員会

感覚・知覚心理小委員会主査の西名委員から来年度以降の方向性について報告があった。これまでの活動内容として 11 回のシンポジウムを開催し、今後はその内容を元に出版を企画している旨を説明された。小委員会は設置期間満了のためひとまず廃止するが、再設置する予定であり、委員については入れ替えを行って活動を継続していきたいことを報告された。

#### ○ ヒューマナイズング小委員会

ヒューマナイズング小委員会主査の讚井委員が来年度以降の方向性を報告した。小委員会は設置期間満了に伴い廃止し、再設置はしない方針を説明された。この 4 年間の成果をまとめ出版するという案が小委員会で出ており、企画刊行委員会に移って成果物をまとめる作業を行うという案が出ているとの報告があった。これに対して、大井委員から、企画刊行委員会に移ると設置から 1 年で出版に至らないといけないため、今後やりとりが必要で 1 年ではとりまとめるのが厳しいのであれば暫定的に WG を設置する方法がよいのではないかという意見があった。さらに、出版に関しては、大井委員から、出版物の出版年度を調整できるという（毎年 1 冊などのように）という意見も挙げられた。

### 2. 次年度以降の本運営委員会の体制について

2013 年度以降の運営委員会の体制について松原主査から報告があった。本運営委員会の主査は 2 年任期で再任 1 度までの 4 年任期となっている。現主査の意向としては 2 年任期というつもりであったが、大半の委員から再任してあと 2 年間主査を務めて頂きたいとの希望があり、本運営委員会の次期主査に関して活発な議論が行われた。次期運営委員会の主査については選挙で候補者を募り、選挙により選出することに決まった。

ヒューマナイズング小委員会を廃止するにあたり、環境心理学の知見を適用している事例を紹介するような小委員会や WG があった方がよいという意見が挙げられた。ヒューマナイズング小委員会の変わりの小委員会を設置することで合意を得た。小委員会設置申請の締め切りは 10 月 26 日であるため、委員会の名称及び活動の具体的な内容に関してはメール会議によって議論することとなった。

### 3. 環境心理生理運営委員会のホームページに関して

環境工学本委員会において、ホームページを通じた積極的な情報発信が求められており、前回、学生が将来像（就職に関する情報など）をイメージできるようなコンテンツや、各委員の研究室紹介のようなページがあると良いなどの意見が挙げられた。今回も引き続き、どのようなコンテンツを掲載するか議論を行った。

大野委員から東工大では Open Course Ware という Web コンテンツを作成しており、講義資料や PDF 化した講義スライドをアップロードしているという話題があった。本運営委員会のホームページにもこのように各委員が講義で使用している資料などを自由に閲覧できる教材コンテンツのようなページがあると良いという意見が上がった。また、各委員の研究室紹介のコンテンツに関しては、幹事の辻村が ML で各委員に対してリンクを貼ることの可否を確認した後、本運営委員会ホームページの委員紹介のところで各委員の研究室ホームページへリンクを貼ることに決まった。ホームページの参考として、日本心理学会の

雑誌に参考になる連載があると大野委員から紹介があった。

#### **4. 過去のシンポジウムやチュートリアル資料に関して**

AIJ デジタルライブラリーによる大会研究集会資料の公開方針について、2012 年度より希望のあるものは会員への無料公開を行い、公開時期や公開方法（全文あるいは部分的など）も選択できるようになる。

本運営委員会に関連する過去のシンポジウムやチュートリアル資料については学会ではデジタルアーカイブとしての扱いとなるが、環境心理小委員会のチュートリアル資料に関しては最終的に出版を考えており、環境心理小委員会で取りまとめておくことに決まった。感覚・知覚心理小委員会のシンポジウムについても出版を考えていると西名委員から報告があった。

#### **5. 次回の環境心理生理運営委員会の開催日程**

次回の本運営委員会の開催日時について、環境工学本委員会が 11 月 6 日に開催されるため、通常であれば同日に運営委員会を開催することになっているが、10 月 26 日が小委員会設置申請書の締め切りということもあり、その前に一度運営委員会を開催する方がよいかもしいという意見があった。そこで開催の可否も含め、委員のスケジュール調整を松原主査から候補日を ML に流し相談することになった。

#### **G. 【次回の開催日程】**

メール会議により決定する。